

## 2 研究の実際 &gt; (2) トラブルについての実態調査

## イ 実態調査の結果と考察(高等学校)

## &lt;頻度の高いトラブル(質問㉑)&gt;

予備調査の結果を基に抽出したトラブルの 20 場面について、「あなたのまわりの様子に近いもの」として 4 件法で調査を実施しました。

調査対象期間は、入学してから 9 月までの 1 年 6 か月間としました。

以下は、「よくある」と「ときどきある」の合計の多いトラブル上位 5 場面についての集計結果です(図 1)。

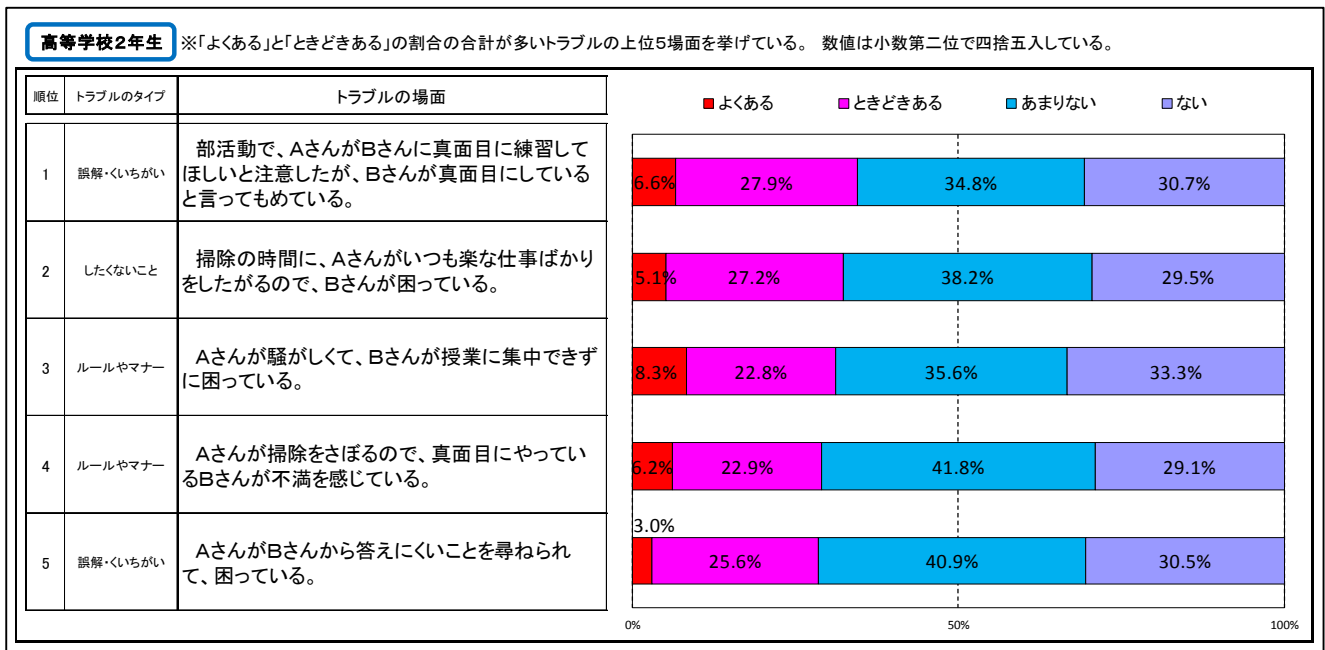


図 1 頻度の高いトラブルの上位 5 場面

高等学校では、トラブルの場面で見ると、**部活動や掃除、授業**の時間帯で起きるトラブルが多いことが分かりました。また、タイプ別に見ると、「誤解・食い違い」と「ルールやマナーに関する意識」が 2 場面ずつありました。最も頻度の高かった「部活動の練習態度」での意見の相違は、部活動に取り組む意識が個人によって異なる場合と、相手が注意するときの言い方や態度に不満がある場合が考えられます。どちらの場合も、生徒が**小集団内で活動を共にする場面において、自分の意見や考えを言い合う中でトラブルが起きている**と考えます。

また、授業や掃除のトラブルの場面では、**自分の意見や考えを言うことができずに困ったり不満を感じたりしている**ことが考えられます。

そこで、生徒が**トラブルにならないような話し方のスキルを学習することで、生徒同士が自分の意見や考えを伝え合うことができるようになる**と考えます。

## <声掛けの意識が高いトラブル(質問④)>

予備調査の結果を基に抽出したトラブルの 20 場面について、「もし、トラブルがあったとしたら、あなたは間に入って声を掛けることができると思うか」として 4 件法で調査を実施しました。

以下は、「思う」と「少し思う」の合計の多いトラブル上位 5 場面についての集計結果です (図 2)。

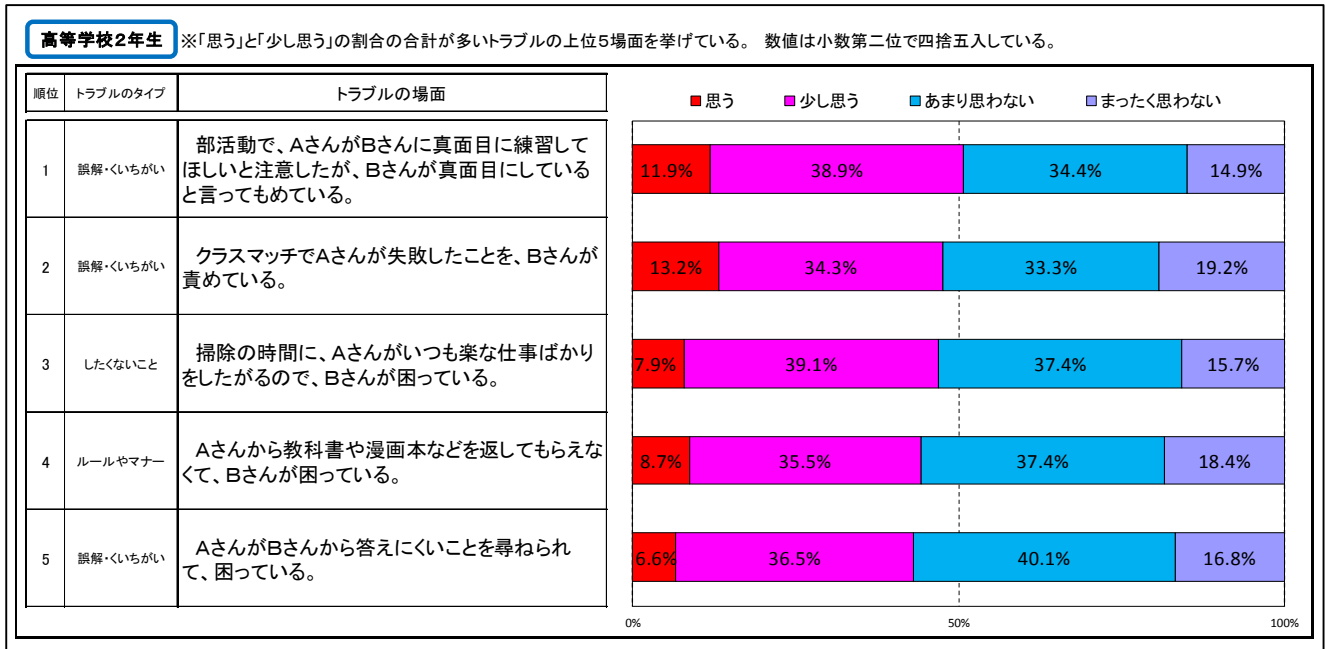


図 2 声掛けの意識が高いトラブルの上位 5 場面

高等学校では、声掛けの意識が高いトラブルの上位 5 場面をタイプ別に見ると、「誤解・食い違い」が 3 場面ありました。また、上位 3 場面は、「部活動の練習態度」「クラスマッチでの失敗」「掃除の楽な仕事」など、**もめたり困ったりしている状況が分かりやすい**ものでした。高校生の声掛けの意識には、トラブルの場面のタイプや状況だけでなく、**相手との関係性が影響**していることも考えられます。

これらのことから、**意見や考え方の違いによって、目の前で対立が起きたり誰かが困ったりしている状況で、困っている相手に共感を抱くことができるような場面においては、生徒は声を掛けることができると思っている**ことが考えられます。

そこで、このような**生徒の声掛けの意識を生かして、生徒が実際に行動に移すことができるようにする必要**があると考えます。

＜頻度の高いトラブルと声掛けの意識の関連性(質問⑦と質問⑧)＞

質問⑦で提示されたトラブルの場面について、「あなたのまわりの様子に近いもの」として「よくある」「ときどきある」と回答した生徒、「あまりない」「まったくない」と回答した生徒のそれぞれについて、質問⑧の「もし、トラブルがあったとしたら、あなたは間に入って声を掛けることができると思うか」に「思う」「少し思う」と回答した生徒、「あまり思わない」「まったく思わない」と回答した生徒の割合を集計しました(図3)。

以下は、質問⑦で「よくある」と「ときどきある」の合計の多いトラブル上位5場面についての集計結果です(図4)。

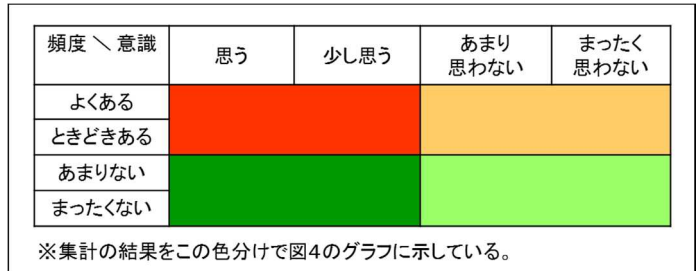


図3 グラフ(図4)の見方

**高等学校2年生** ※質問⑦で「よくある」と「ときどきある」の合計の多いトラブルの上位5場面について、質問⑦と⑧の両方に回答した生徒の集計結果を挙げている。数値は小数第二位で四捨五入している。

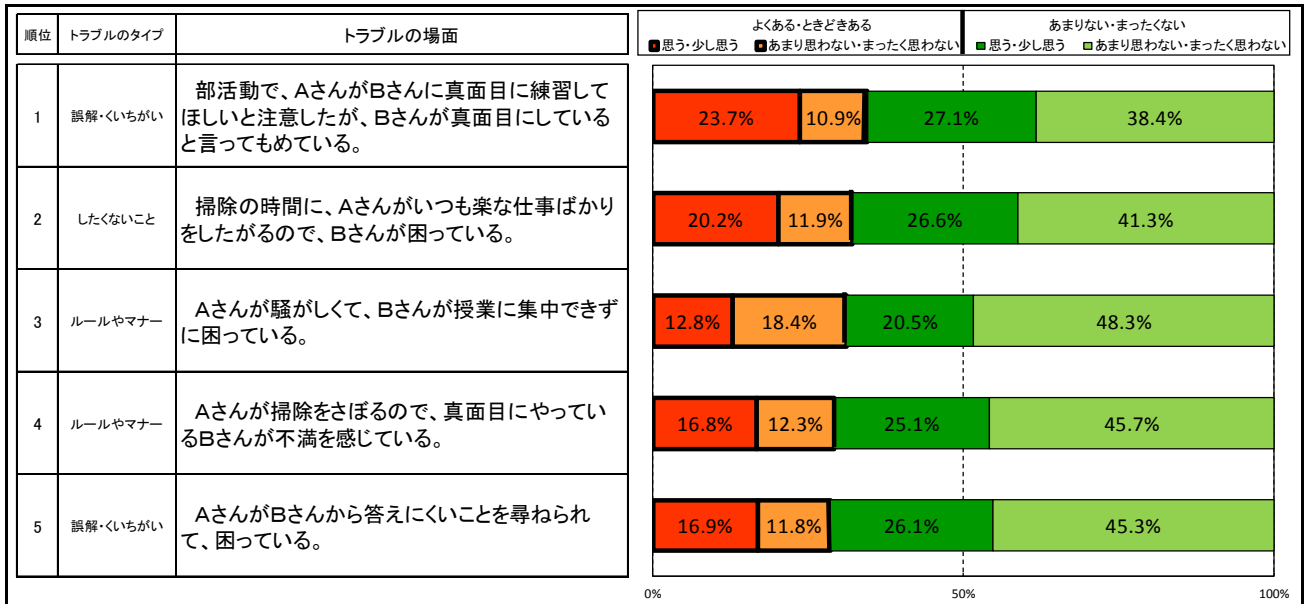


図4 頻度の高いトラブルの上位5場面における声掛けの意識

高等学校では、「授業中騒がしい」を除く頻度の高いトラブル4場面で、そのトラブルが「よくある」「ときどきある」と回答した生徒のうち、声掛けの意識で「思う」「少し思う」と回答した生徒の割合が50%を超えていることが分かりました。このことから、**学校生活において多くの生徒が経験するトラブルには、声を掛けることができると思っている生徒が多い**と考えられます。

一方、「授業中騒がしい」場面については、トラブルの頻度では上位にあるにも関わらず、声掛けの意識で「思う」「少し思う」と回答した生徒の割合が50%に達していませんでした。これは、生徒は、**授業中のトラブルには教師が声を掛けた方がトラブルが収まりやすいと考え、教師がいる場面では声を掛けようと思わない**ことが考えられます。

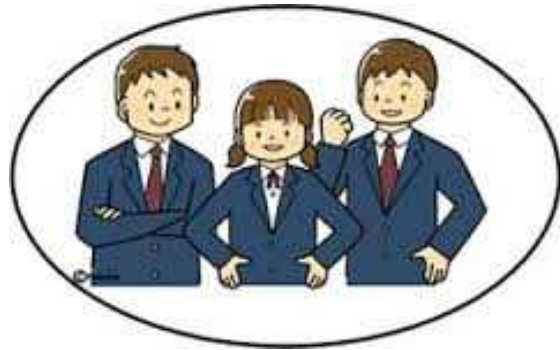
そこで、**トラブル未然防止やトラブル解決のスキル学習を行う場合、教師不在で多くの生徒が経験する実際のトラブルの場を用いて学習することが有効である**と考えます。

### ＜怒りへの対処法＞

高等学校では、怒りへの対処法として、「**友だちに話す**」(72.4%)、「**ゲームや音楽などで気を紛らす**」(74.5%)、「**我慢する**」(70.4%)と回答した生徒が多いことが分かりました。「友だちに話す」と回答した生徒は、「親に話す」(32.2%)や「先生に話す」(4.0%)と回答した生徒よりも多いことから、怒りを感じたときには友達に話すことで気持ちが落ち着く生徒が多いことが考えられます。このことから、話している友達の気持ちが落ち着くような**話の聴き方について学ぶ必要がある**と考えます。

また、「ゲームや音楽などで気を紛らす」と回答した生徒が多いことから、**その場で1人でできる怒りへの対処法について学ぶ必要がある**と考えます。

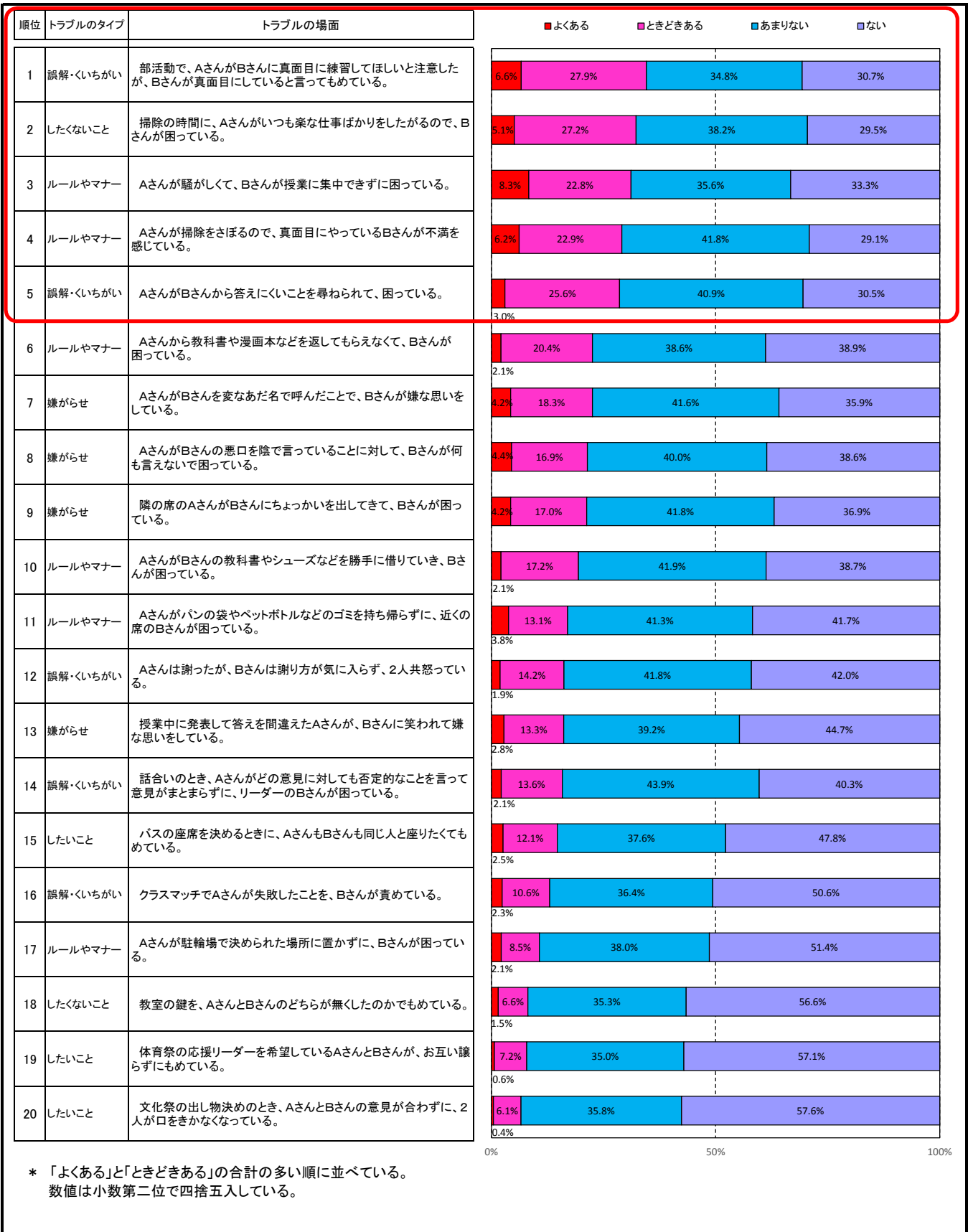
さらに、「一人になれる場所へ行く」(60.8%)、「これからどうするかを考える」(51.2%)「運動などで身体を動かす」(43.2%)、「落ち着くように自分に言い聞かせる」(34.5%)など、自分も相手も傷付けないように怒りに対処している生徒がいることから、生徒同士でこのような怒りへの対処法を共有することが必要であると考えます。一方で、「我慢する」と回答した生徒が7割以上いることや、「自分を傷つける」、「メールやSNSに書き込む」と回答している生徒がいることから、**自分も相手も傷付けない対処法を学ぶ必要がある**と考えます。



＜高等学校2年生集計結果＞

トラブルの場面について

質問⑦ ①～⑳のトラブルの場面について、入学してから今までのあなたの周りの様子を選んでください。



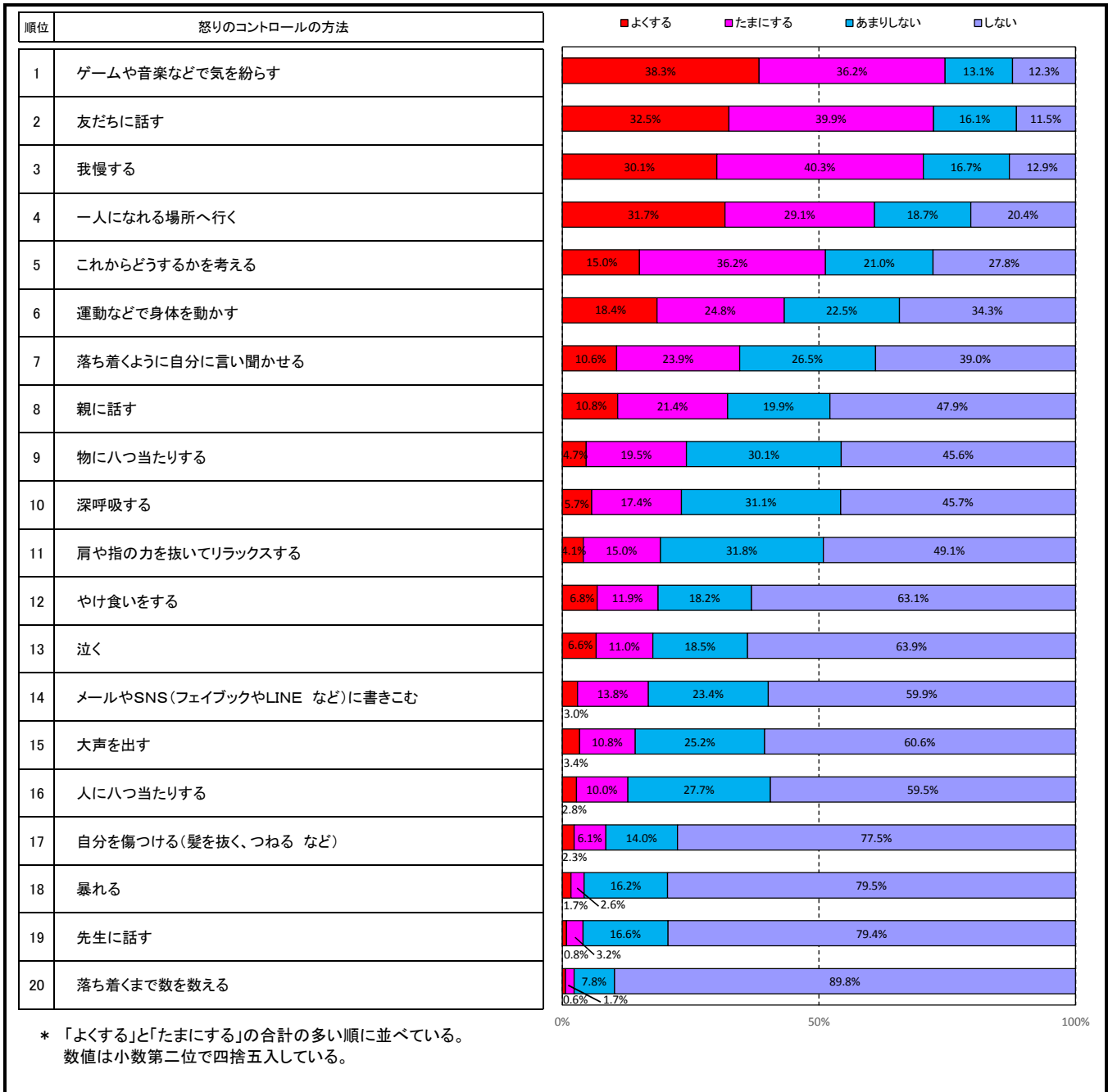
質問① もし、①～⑳のトラブルがあったとしたら、あなたは間に入って声を掛けることができますか。



### 怒りのコントロールについて

質問⑤

学校生活で友だちに腹が立って、イライラしたりムカムカしたりしたとき、あなたはどのようにしていますか。



怒りをコントロールする方法として、他にもやっていることがあったら書いてください。

**寝る [23]**

**何かに没頭する**

- ・好きな事をする[3]
- ・部活動で発散する[2]
- ・歌を歌う
- ・ピアノを弾く

**前向きに考える**

- ・自分も悪い所があるかどうかを考える[2]
- ・よい方向に考える
- ・相手のよい所探しをする
- ・イライラした友達との楽しかった思い出を振り返る
- ・忘れるようにする

**気分転換をする**

- ・ガムを噛む
- ・外の空気を吸う
- ・買い物に行く

**自分の気持ちを絵や文章にする**

**その他**

- ・動物と触れ合う[2]
- ・先輩に話す

\* [ ]の中の数字は、同様の内容を回答した児童生徒数を表している。